



# 大阪 保険医新聞

10/15

2025年第153号  
(毎月5、15、25日発行)

大阪府歯科保険医協会  
発行人 和田  
大阪市浪速区幸町2-2-20 4階  
電話(06)6568-7731(代表)  
http://osk-hok.org/  
●定価・年間10,000円 月1,000円  
●1977年5月23日第三種郵便物認可

政策部による改定解説  
偏在問題が課題に  
検討会の構成員は大学  
関係者や歯科医師会、技  
工士会、衛生士会などが  
占めるが、今回の合同会  
議には、参考人として新  
潟県や島根県の健康・福  
祉関係部などが加わった。

新潟県福祉保健部健康  
づくり支援課の資料を紹  
介したい。2020年の  
将来像への  
検討ない

偏在問題  
9月30日、厚労省は「歯科医療提供体制等に関する検討会」と「歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ」を合同開催した。「歯科医療提供に関する現場の課題や今後の方針等について、理解を深めるために関係者に対してヒアリングを行う」ことを目的にしている。会議に提供された資料を分析し、政府の考る方向性を探りたい。

た。重音が歯科医師・歯科診療所の偏在問題における内容となつた。

需要に応じる歯科予算を  
9・4人、最小は魚沼医  
療圏47・6人。資料では  
最多は新潟医療圏13  
困りごとと  
不安67%

新潟県は、この間の取り組みとして昨年、市町村、都市歯科医師会、保健所との情報共有・意見交換会を実施している。

ても、歯科医師は今後人  
数が減少し、また高齢化  
していくことが予想され  
ている」と現状を分析し

た。重音が歯科医師・歯科診療所の偏在問題における内容となつた。

需要に応じる歯科予算を  
9・4人、最小は魚沼医  
療圏47・6人。資料では  
最多は新潟医療圏13  
困りごとと  
不安67%

新潟県は、この間の取り組みとして昨年、市町村、都市歯科医師会、保健所との情報共有・意見交換会を実施している。



2026年竣工予定  
大阪 保険医会館  
新会館建設へ

# 新会館5階 新ホール愛称募集

新会館建設運動推進委員会

新会館竣工は  
2026年夏  
協会は、医科協会とともに新会館建設を進めている。先月、旧会館の土地は更地になり、いよいよ新会館建設に着手する。新会館は、「保険医の思いを未来に届ける新会館」をスローガンとして、関西の保険医運動の拠点にふさわしい会館を目指す。2026年夏、竣工予定。

新会館の5階には160人を収容し、WEB配信での研究会や講習会にも対応できる新ホールが完成する。新ホールは会員の先生方に、より親しみを持って利用していくため、新ホールの愛称を会員の先生方からの募集とした。

要請には、協会から斎賀史郎理事のほか、保団連から宇佐美宏歯科代表、「保険でよい歯科」全国連絡会から雨松真希人技工士などが同席した。厚労省からは医政局・奥田章子氏、保険局・田上真理子氏が応対。要請は立憲民主党の亀井亞紀子衆院議員の仲介によって実現した。

9月25日、衆議院第2議員会館で実施した歯科技工問題に関する厚生労働省要請に参加した。粘り強く質問を重ね、厚労省の言葉を引き出しができた。厚労省も現行の医療行政・医療体制が崩壊する事は望

が去年実施した歯科技工所のアンケートからも長時間労働や休暇のない実態が明らかだとし、「歯科技工になつてもこうした状況では辞めてしまう」と厳しい状況を示した。「一部デジタル化や

時間労働や休暇のない実態が明らかだとし、「歯科技工になつてもこうした状況では辞めてしまう」と厳しい状況を示した。「一部デジタル化や

CAD/CAM冠が進んでいるものの、生産性向上は限定的で現状打開には至つていない」と指摘。取引ルールなどの整備が急務だと要望した。

9月25日、協会・保団連は歯科医療費の総枠拡大と歯科技工問題で厚労省に要請した。要請の様子と、参加した斎賀史郎理事の感想を紹介する。

9月25日、協会・保団連は歯科医療費の総枠拡大と歯科技工問題で厚労省に要請した。要請の様子と、参加した斎賀史郎理事の感想を紹介する。

# 歯科医療・技工守れ

## 求めているのは大幅アップ

理事 斎賀 史郎

た。

た。